

## 今月のトピック

遮光カーテンは  
徐々にやめて

残暑厳しく、近年は10月に入っても最高気温が高い日があります。しかし、確実に日照時間、日射量は減ってきています。植物はどんどんと成長し、必要としている光合成量も増えてきています。光合成要求量に合わせた管理をしていきましょう。

## 秋の光合成不足に注意

## ①日照時間の変化

夏至（今年の場合は6月21日）を過ぎるとどんどん日照時間は減っていきます。梅雨があったり、台風や長雨などで天候が乱れがちですが、9月は秋へと近づいています。

月日	日の出	日の入	日照時間
6月21日	04:35	19:10	14:35
7月10日	04:45	19:10	14:25
7月28日	05:00	19:00	14:00
8月12日	05:10	18:45	13:35
9月1日	05:25	18:20	12:45
9月22日	05:40	17:50	12:10
10月6日	05:50	17:30	11:40

夏至

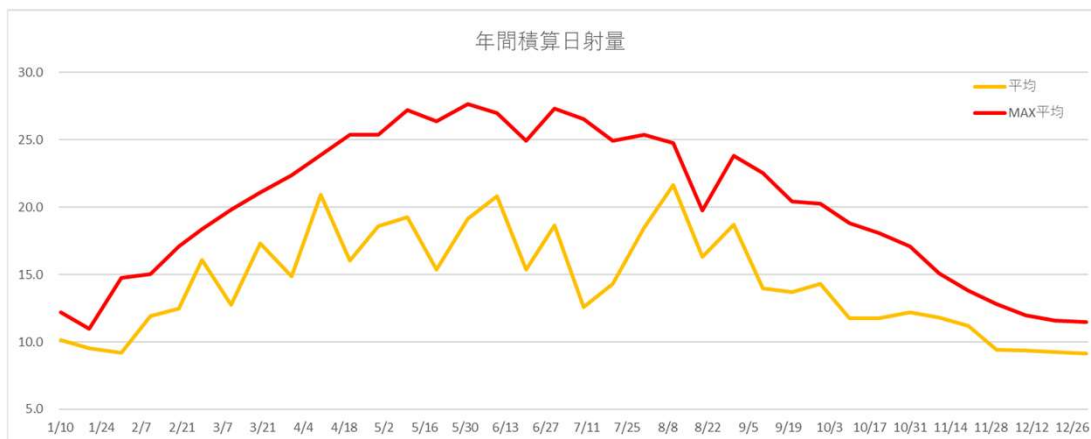
彼岸

※参考:愛知県の日の出日の入り時刻

## ②日射量の変化

トマトの定植シーズンである8月は、一年の中で最も気温が高いので、勘違いしがちですが、日射量、日照時間はともに前月、前々月と比べて減少しています。（ちなみに日本で最も日射量が多いのは5月です）

9月は8月よりもさらに日射量が減り、日照時間も短くなるため、光合成不足になりやすいです。また、同じ9月とは言っても、9月上旬と下旬では日射量に大きく差が出ます。遮光カーテンの使用時間の見直しをするなど、積極的に光合成をさせてあげましょう。



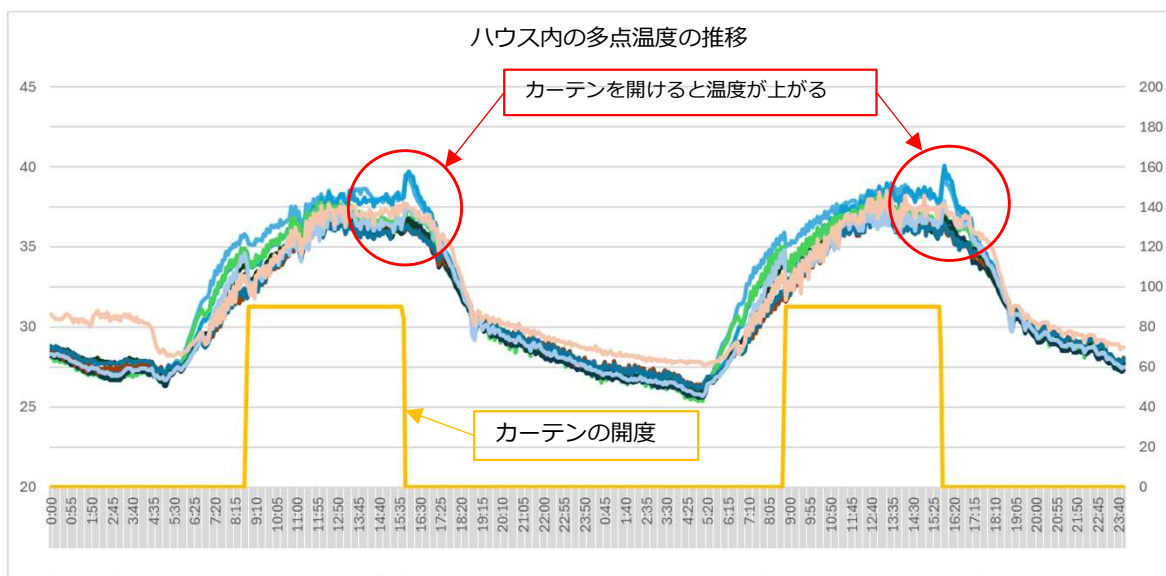
弊社研究農場のデータ

# 遮光カーテンの使い方

## ①遮光カーテンの閉める時間と開ける時間

「暑いから」と遮熱カーテンをタイマー等で自動的に朝から夕方まで閉めていませんか？「しおれが心配だから」という理由での遮光カーテンの使い過ぎは光合成不足を招きます。午前中はできるだけ遮光カーテンをしなくてもしおれない樹を作りたいものです。

また、遮光カーテンを15時くらいに開けていませんか？「できるだけ遮光はしたくない」という理由から夕方、早めに遮光カーテンを開けると、遮光カーテンの上にある暑い空気が下りてくるため、しおれの原因となったり、芽先が細い場合、そのまま芽先が焼けてしまいます。特に晴天の日は夕方、早く遮光カーテンを開けるのではなく、涼しくなった夕方の遅めの時間に遮光カーテンを開けた方が温度の急上昇も防げます。

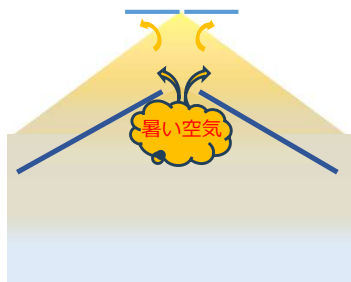


## ③遮光カーテンの隙間

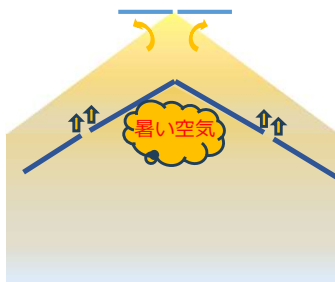
遮光カーテンはカーテンの下に日が当たるのを防ぎ、温度の上昇を抑える一方で、カーテンを全閉してしまうとカーテンの下の空間の温度が抜けにくくなり、熱気がこもることがあります。カーテンは全閉せず、少し空間を開けることで熱気を抜くことができます。

しかし、カーテンの構造により暑い空気の抜け方は異なります。カーテンの素材や構造、ハウスの構造や立地条件によってはカーテンの隙間を空けない方が涼しいこともあります。

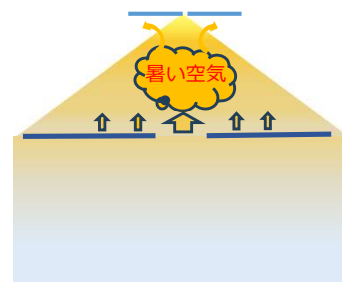
カーテンの構造と暑い空気の抜けるイメージ



傾斜2枚張り



傾斜4枚張り



平張り

どのくらい隙間を空けるのが良いのかはカーテンの構造だけでなく、使用している遮光カーテンの素材によっても異なりますのでご注意ください。